

岡田宮

宝永4年(1707) 貝原益軒書

第75号

令和5年7月吉日
発行 岡田宮社務所

郵便番号 806-0063
北九州市八幡西区岡田町1番1号
電話 (093) 621-1898
FAX (093) 621-5330
ホームページ <http://www.okadagu.jp/>
Eメール okadaguu1898@yahoo.co.jp



夏越祭

悪病退散
無病息災

令和五年七月二十九日(土)

午前九時～午後九時(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

大祓神事 午後六時より

当日ご参拝の方に悪病退散・無病息災の「お札」を授与いたします。魔除けとして玄関に奉斎してください。初穂料は大祓袋に住所氏名を書かれてお納めください。郵送対応も行っています。今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

※今年、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

七五三

七五三祭は、子供の成長にともない節目々々に神社にお参りして、いっそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の男子女子の祝いを髪置、五歳の男子の祝いを袴着、七歳の女子の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によつて必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、令和五年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参りください。

記

三歳 令和三年生(かぞえ年齢)
令和二年生(満年齢)
五歳 平成三十年生(かぞえ年齢)
令和元年生(かぞえ年齢)
七歳 平成三十年生(満年齢)
平成二十九年生(かぞえ年齢)
平成二十八年生(満年齢)

※年齢はかぞえ年でも、満年齢でもかまいません。

※毎日午前九時より午後三時五十分まで受付をしています。



正月短期奉仕者募集

大神様のお側近くで、お神札やお守りをお授けする男女の奉仕者を募集しています。神様に仕える重要なお務めです。

奉仕資格

- 健康に自信のある男女
- 報告・連絡・相談ができる人
- 気持ちの良い返事ができる人
- 大きな声で挨拶ができる人
- 黒髪(長さは問いません)

※書類審査・面接があります。



ご希望の方は神社社務所
電話 (093) 621-1898
11月までにお問い合わせください。



有川写真館
岡田神社 STUDIO

北九州市八幡西区岡田町1-46
TEL 093-621-2080

■営業時間 10:00～17:00
■定休日 水曜日

撮影衣装・着付・ヘアメイク無料

¥38,500~

(四切2枚・台紙付)

七五三お出かけレンタル衣装

¥0~

(お一人様)

新作ブランド衣装など多数取り揃えております

目次

夏越祭ごあんない	1	神社なぜなぜ問答75	3
岡県紀行15	2	七五三	4
ひな人形まつり	3	短期奉仕者募集	4

岡田宮紀行 15

下関の商人が奉納した灯明台

岡田宮隨身門前の階段両側に、万延元年（一八六〇）五月上旬に奉納された一对の灯明台が現存している。当時の宮司は波多野直繩（駿河守）。奉納者は長州赤間関（現山口県下関市）の小松屋与八であるが、なぜ下関の商人が灯明台を奉納したのであるうか。



小松屋は、萩（長州）藩の支藩である長府藩領の豊浦郡赤間関西南部町の商家である。天保九年（一八三八）

四月の「人別名前控帳」に小松屋与八の名を見出すことができ、「男三人、女三人、下男五人、下女二人」とある。

小松屋は、大坂堂島米市場（現大阪市北区）での取引で財を成したようである。また、福岡藩領の筑前国嘉麻郡・穂波郡から生蠟（燭の実等から採取した蠟燭の原料）を仕入れていた。さらに箱館（現北海道函館市）にまで商売の手を広げた。正確な時期は特定できないが、小松屋与八の船は箱館で資金が不足し、金四百両の為替手形を振り出している。

ただ、明治時代以後、小松屋与八の子である梅太郎が、遊興に湯水のように金を使って身代を潰し、東京に移住したという（伊藤房次郎『關の町誌』）。与八の跡を継いだのが与兵衛ではないかと推測される。

実は灯明台が奉納される前から、熊手村と小松屋には接点がみられる。嘉永六年（一八五三）、遠賀郡は早魁に見舞われた。熊手村も凶作で、年貢を納めるのも難しい状況で

あった。年貢を納めるため、熊手村として小松屋与八から金子百五十両を借り入れ、五年をかけて返済したのである（『増補改訂遠賀郡誌』上巻）。

岡田宮の古文書によると幕末、同宮の鳥居前に遠賀郡本城触・弘川触の「現穀米御備御囲蔵」があった。触とは福岡藩における郡部の行政単位で、大庄屋の居住する村名を冠した。御囲蔵の目的は凶作の際の二触の村民のためで、小松屋与八は「御蔵元為御安全之」として鳥居の所に「永代式日献灯一对」を奉納した。当時の参道入口、街道に面した所と推測される。

凶作の際に金子を貸借したことで熊手村と小松屋の縁が生まれた。そして凶作に備える蔵の安全を祈捧する波多野直繩を始めとする岡田宮の神職に感心してか、あるいは宣伝のためか、小松屋が奉納したのが現存する灯明台である。

（北九州市立自然史・歴史博物館学芸員 守友 隆）

ひな人形奉納

ご家庭に眠っている【ひな人形】神社に奉納しませんか?? ひなまつりの期間、境内に設置いたします。

ひなまつり終了後は清祓を行いお焚き上げいたします。

令和5年ひなまつりでは15組のひな人形を奉納いただき約180体のひな人形が境内で皆様をお迎えしました。

奉納期間

令和5年10月1日(日)から令和6年1月31日(木)まで社務所窓口におこしください。9時から17時まで。



神社なぜ問答

(その75)

八幡神社と御祭神について教えてください。

八幡神社には、八幡宮や八幡社と称される神社も多く、さらに地名等を冠した呼称の社も見られます。八幡神社は全国に約八千八百社あり、分布もほぼ全国的に見ることができます。

八幡神社の起源は、大分県宇佐市に鎮座する宇佐神宮（宇佐八幡宮）を始めとします。御祭神は応神天皇（誉田別尊【ほんだわけのみこと】・神功（じんぐう）皇后・比売神の三神で、欽明天皇の御代（五四〇～五七二）、豊前国宇佐郡の御許山に初めて現れ、大神比義（おおがのひぎ）によって祀られるようになりました。これが宇佐神宮の創祀とされています。

奈良時代、八幡神は聖武天皇の詔によって進められた東大寺の大仏建立を助けるため上洛し、東大寺の守護神として鎮座（現・手向山神社）、次第に仏教との習合を深めていったため、仏法

守護の神として崇められ、「八幡大菩薩」の称号が奉られました。また、同時代末には和氣清麻呂（わけのきよまろ）が宇佐八幡宮の託宣（たくせん）を受けて皇位を狙う僧道鏡の野望を阻止したことにより、皇位守護の神としての性格も強めました。

平安時代には平安京の守護神として勧請され、都の裏鬼門（南西）の方角の男山に祀られたのが、現在の石清水八幡宮です。鎮護国家の神として朝廷の篤い崇敬を受けました。この石清水八幡宮の社前で、元服の式を挙げたのが八幡太郎として名高い源義家です。義家は源氏の棟梁として八幡神を自らの氏神、また武門の守護神として仰ぎました。

その由縁もあり、源頼朝が鎌倉幕府を開くと、鶴岡八幡宮を現在の地に勧請し、幕府の守護神として祀りました。このほか、祭神の縁故の地や宇佐神宮・石清水八幡宮・鶴岡八幡宮の神領への分祀、また源氏、殊に頼義や義家といった武将の勧請などにより各地に祀られるようになりました。